

助産師って、「職人」だって思うんです。

伊藤隼也は、今回、十数年前から「院内助産システム」を取り入れ、常勤産科医2名、助産師18名で年間750件近いお産を行う育良クリニック（目黒区）を訪問。助産師の志田美佳子さんにお話を伺いました。
※数字は2008年のデータ



vol.14
育良クリニック
助産師

2日前に産まれた女の子とご両親。お母さんと誕生日が一緒とか。

幼い頃に見た「取り上げ婆」が今の自分の原点

伊藤 志田さんは助産師になって何年目なんですか？
志田 5年目です。ここに来てからは3年目になります。
伊藤 昔から助産師になりたかったのですか？
志田 ええ。確か中学生の頃だったと思いますが、テレビか何かで（助産師の）おばあちゃん、いわゆる「取り上げ婆」を見て感動したんです。妊婦さんのおなかに手を当てれば何でも分かる。そういうのってすごいな、と。
伊藤 よつほど「取り上げ婆」が印象的だったんですね。
志田 実はそんなことはなくて……。一時期、助産師のことは忘れていたんです。高校のときに将来のことを考える機会があって、そのときに「生きていくのは簡単じゃないな」って思ったんです。変な子ですよ（笑）。
伊藤 ははは。
志田 それで、自分分っているのは自分だけで築き上げたものじゃなく、いろんな出会いや周囲の影響を受けてでき上がっていると感じたんです。その出会いの最初に関われる仕事をしたいな

正常なお産と、そうではないお産。その一線は何か——。助産師はそれを知っているべきと、志田さんは厳しい現場に飛び込んだ。



産後のお母さんから相談の電話を受ける志田さん。

責任の重さと厳しさを教わった大病院時代

伊藤 つまり、志田さんはかなり早い段階で、「助産師は何を身につけておくべきか」考えるようになった。とても重要なことだと思いますが、なぜそこに気付いたのでしょうか？
志田 急に気付いたわけじゃないですね。助産師の実習を経験して少しずつ考えるようになったというか……。伊藤 その知識を得るために入った大病院はどうでしたか？
志田 正直、思った以上に厳しかった。と思って、そのときに「取り上げ婆」を思い出しました。伊藤 最初の出会いの部分を大切にしていた、ということですか。それで志田さんは都内の看護学校を出て、すぐに助産学校に入った。卒業してからは大病院に入職されています。なぜ大病院を選んだんですか？
志田 正常なお産の範囲と、それが転じるタイミングはどこか。それから順調だった妊婦さんに問題が起きた場合、その後はどういうケアが必要なのか。それを学ぶ必要があると思いました。そういう知識がないと妊婦さんに伝えることができませんから。
伊藤 経験が積まないうちに、いきなり現場に放り込まれてしまった、と。
志田 その重圧で、病院に来られなくなった仲間もいました。
伊藤 でも、志田さん自身はがんばって続けられていましたよね。
志田 2年間だけです。もう1年続けていたらどうなっていたか分かりません。最後のほうはお産に関わるのが怖くなっていましたし。正常なお産でさえ、何か起こるかも知れないって思ってしまうんです。そうすると手が出せなくなるというか。
伊藤 どういうことですか？
志田 例えば、出産後に「この子もう少し待ってお産にしてあげてもよかったです」と思うことがあるんですよ。でも大病院では、もっと早い段階で出産させてしまいます。

転載禁止

Profile
育良クリニック
助産師 志田美佳子さん
新潟県出身。東京医科大学看護専門学校を卒業後、母子保健研修センター助産師学校に入学。大病院で2年間働いたのち、3年前に育良クリニックへ。

伊藤 医療介入が行われてしまうということがありますね。それは妊婦さんにとっでは望ましいことではないと？
志田 それは分かりません。妊婦さんも、赤ちゃんが元気で産まれるのが一番だから、あとは医療者に任せますという人が多いです。ただ……。伊藤 助産師としては違和感があった、ってことですね。何か印象的なできごとはありましたか？
志田 大病院にいたときは、つねに「裁判」という言葉が頭の中にあっただけ。何かあったら裁判、何かあったら訴えられる。実は以前、同期が結果の良くないお産に当たったことがあって。その子自身は、技量不足が原因じゃないかと悩んでいたのですが、振り返りがすぐになされず、そのうち、「誰が」「何が」という話題が上がったりして……。

お産にはリスクがあることを、
厳しく諭すこともある。
そんな助産師だからこそ、
妊婦さんは安心し、任せるのだろう。



志田 問題がなければ申し送りはすぐに終わりますけど、やはり何かあったときのために慎重にはなりますね。その他に、妊婦さんは電話で担当の助産

さんと、そうでない妊婦さんがいます。助産師と信頼性、関係性を築くには、やはりある程度の時間が必要ですが、きついことも言わなければなりませんから。伊藤 食事とか体重コントロールとか、日常生活の過ごし方など、お産に影響するファクターをしっかりとコントロールするためには、ある程度、厳しい言い方になっちゃう？

志田 「キツイ」って言われたことあります（笑）。でも、お産にはこれだけリスクがあるということ、簡単に誰にでもできることではないということ、前もって伝えることも助産師の役割ですからね。万が一の場合でも対応できますが、やっぱりそうならないための、がんばり、みたいな意識は妊婦さんに持ってもらうわないと。伊藤 先ほどナースステーションを拝見しましたが、妊婦さんの申し送りがとてもいい感じだと感じました。時間をかけるというのは、妊婦さんと面会する時間だけを指すのではないということがよく分かりました。それはまさに「余裕」があるからこそできることだと思います。

志田 私、ここに来て初めて（赤ちゃん健診に来たお母さんから）「おかげ

伊藤 それは、縦割りの体制も関係していると思いますが、結果としてそのしわ寄せは患者さんに行くし、それがまたスタッフにも返ってきてしまうから、悪循環ですよ。志田 志田 志田

伊藤 最後に制度的なもので言いたいことがあったらどうぞ。志田 やはりマンパワーが足りないですね。大学病院でもそうでしたが、こ

助産師仲間へのメッセージ
伊藤 最後に制度的なもので言いたいことがあったらどうぞ。志田 やはりマンパワーが足りないですね。大学病院でもそうでしたが、こ



伊藤 也 (いとうしゅんや)
写真家・医療ジャーナリスト
医療情報研究所代表
患者中心の医療を実現するため医療ジャーナリストとしてテレビや雑誌などのメディアで活動中
ホームページ shunya-ito.tv

志田 助産師ってたいへんな仕事です。手放しでおすすめる仕事じゃない（笑）。でも、自分の手を使ってできる「職人」だと思っんです。やりがいもあります。助産師を目指す方がいたら、一緒にがんばっていききたいですね。

伊藤 これから助産師になりたい人ひと言をお願いします。志田 助産師ってたいへんな仕事です。手放しでおすすめる仕事じゃない（笑）。でも、自分の手を使ってできる「職人」だと思っんです。やりがいもあります。助産師を目指す方がいたら、一緒にがんばっていききたいですね。

で、ここまで大きくなりました」って言われたんですね。誰かの役に立っていることを実感できたんです。伊藤 今まではそうだったことを感じる余裕がなくなったことですね。ただ、あえて厳しいことを言いますが、お産の現場って、いいことばかりではありませんよ。志田 そうです。最初はやっぱり落ち込むし、お産の介助が怖くなります。けれど、そういうときこそ、仲間で内容を評価し、対策を考えることが大切。それで少しずつ冷静になって、整理ができてきますから。

妊婦さん主体のお産
助産師の本当の役割とは

伊藤 それで、志田さんはもう少し主体的な助産の仕事望んで、育良クリニックに来たんです。志田 助産師の数が多いところが魅力

伊藤 そうですね。志田 それで、責任のある仕事なのに、自分にはそれを負うだけの力量が伴わない、学びの場もなかなかない。結局、恐怖心だけが募って、続けていられなくなりました。



今日は志田さんは夜勤。時間をかけていいに申し送りをする。

伊藤 入ってみてどうですか？志田 助産師の仕事って、こんなに楽しくできるんだって思いましたね。助産師同士、情報交換をしたり、お互いに評価しあったり。妊婦主体のお産というものはどういうものか、たいへんな学びになっています。

伊藤 もう少し具体的に教えていただけますか？志田 初めの頃は、お産を介助しながら、隣にいる助産師に「(会陰切開しないで) まだ大丈夫？」「まだ大丈夫？」って質問ばかりしていました。

伊藤 なるほど。患者さんとの関係はどうでしょう。大学病院ではシステムの一部として動いていたのが、いきなり一対一の関係になりますよね。志田 やっぱり最初は緊張しました。どこかで「私が担当でゴメンナサイ」って思っていました。今から考えるとそういう気持ちが態度とかにも出ていて、妊婦さんに不安を与えていたかもしれない。

禁止使用一次転載



伊藤 ここは年間750例あまりの出産を行っています。そのうち3次施設への緊急搬送はわずか8件しかない。ケースによってはV B A C (帝王切開経産婦の経産分娩) もするし、骨盤位のお産や帝王切開もする。今や少しでもリスクのある妊婦さんは、すべて周産期センターや大学病院という流れが一般的ななかで、そういう妊婦さんが問題なく赤ちゃんを産んでいる。妊婦さんの満足度も高いと聞いています。それはなぜだと思いますか？志田 妊婦さんへの時間のかけ方が違うのだと思います。時間が必要な妊婦